

100

1

問一
ありのままの事実は、哲学的・宗教的真理の超越性や政治的な原理や徳の崇高さを持たず、人を説得したり鼓舞したりできる内容が含まれていないため、不都合な事実であれば素直に受け入れられることが少ないから。

問二
ウ 3点

問三
「事実の真理」は起こってしまった一つの事実であり、絶対的な性格を否応なく持っているため、複数の意見の存在を前提とする「政治」の領域とはつきりと区別する必要がある。

問四
政治という営みの中に巻き込まれてはいるが、政治の現場に密着しながらそれと一定の距離を保ち、可能な限り事実を確かめて、信頼できる情報を多くの人々にいち早く報ずるところ。

問五
エ 3点

問六
イ 3点

問七
A
エ
B
ウ
C
ア
D
イ 2点×4

問八
ア
中傷
イ
熱弁
ウ
専制

エ
間口
オ
立憲 2点×5

問九
ウ 2点

受験番号

□	□	□	□
---	---	---	---

氏名

模範解答

2

問一
(一) a ア b エ 2点×2
(二) I ほくそ II 門(かど) III 福 2点×3

問二
悠之介のことが好きだという母は、結婚相手として好きなのではなく、自分の味方になってくれる大切な友人という意味で好きなのであり、好きには、いろいろな好きがあるということ。

問三
蛍の父ホトムラさんは悠之介の親友で、蛍の生まれる二ヶ月前に事故で亡くなったため、悠之介が頼子さんを支えるとともに蛍の名付け親になっていたの、悠之介は蛍に対し一層の愛情をもって接しているから。

問四
ア かぶり イ くちびる 2点×2

問五
美容師として働く母と二人で暮らしてきた蛍にとって、母を慕うがゆえにこれまでの不幸な境遇や生活苦を恨んでいるため、今は安易な慰めの言葉は聞きたくないという気持ち。

問六
ウ 4点

問七
A カ B ア 2点×2

問八
イ 4点

問九
ウ 3点

50

50